



子供からシルバー世代まで、 みんなで取り組む防災対策



千葉県習志野市 津田沼ハイライズ自主防災会
初期消火班 濱田 勤

1 はじめに

習志野市は、千葉県船橋市と千葉市に挟まれた人口約17万3千人、約8万世帯の街です。

私たちの自主防災会は、習志野市自主防災組織助成要項を受けて、入居当時からあったマンションの自衛消防隊組織を2005年に改編し、現在、24名で活動しています。

首都直下地震への対応を主に考え、消防訓練（春）、防災訓練（秋）と名付けた訓練を毎年実施しています。なお、マンションの立地特性から、津波、水害、土砂崩れなどの災害対応については、訓練から省いております。

私たちの訓練の特徴は、地上に避難してきた居住者を10のグループに分けて、複数の訓練アイテムを約2時間の中で効率的に行っていることです。

2 訓練の概要

訓練概要は次のとおりです。

①顔と名前を認識してもらう

マンションにおける居住者間の人間関係は希薄になりがちです。訓練の都度、部屋番号と氏名を記入したカードを作成してもらい、そのカードを首から掛け、顔と名前を覚えてもらうようにしています。

②在宅避難を想定した各居室の安否確認

避難所の受け入れ人数には限界があるため、マンションにおける在宅避難を原則にしています。このため、自主防災会のリーダーと居住者による各居室に滞留している居住者の安否確認を訓練の都度行っていま



顔と名前を覚えてもらう



在宅避難を想定した各居室の安否確認

す。

③市役所、消防署の協力による訓練

地震体験車による地震の体験、はしご車による高層階からの脱出、AEDを用いた救急救命、訓練用消火器による消火訓練、ロープ結び訓練などを実施しています。

④防災資機材などの組み立て

居住者による、テント、リヤカー、マンホールトイレの組立なども定期的実施しています。

⑤その他の訓練

居住者間の人の輪を広げるため、グループ討議（例：地震の揺れが収まりました。次にあなたは、何を行いますかなど。）やペッ

トボトルケースと牛乳パックを利用した、簡易トイレの製作などを訓練参加者に実施してもらい、居住者の相互理解に努めるようにしています。



その他の訓練（簡易トイレの製作）

⑥炊き出し訓練

炊き出し訓練は、若いお母さんや小学生、ハイライズ健友会という高齢者グループとの共同作業で行っています。この結果、女性を対象とした人の輪が広がり、多くの参加者の増加がありました。



炊き出し訓練

⑦情報の発信

訓練実施の情報は、ポスターや案内文書で行っています。訓練が終了したらアンケートや反省会の総括を「毎月発行されている防災レター（災害対策検討委員会たより）」としてまとめ、居住者にフィードバックしています。

3 これからの課題

マンションの居住者は高齢化が進む一方、若い人々も数多く見られます。

このような世代の構成において、高齢者を手助けできる若い人々を醸成し、大きな災害が発生した場合、先頭に立って活躍してもらうことが出来る組織にすることが最も大事な課題と考えています。

そのためには、訓練の一翼を若いお父さんやお母さんに担ってもらうため、訓練への参加が楽しく、万が一の際に必ず役に立つようなプログラムを作成して参加機会を増やしてもらうことが最も必要と考えています。

また、要配慮者への対応については、自己申告のあった居住者に対する支援体制は構築可能ですが、避難行動に支援が必要と思われる居住者に対しては、個人情報保護法の観点から積極的な対応体制の構築には至っていません。マンション内の人間関係の中での整備が緊急の課題と考えています。

4 おわりに

私たちの自主防災会は、平成29年度に千葉県で初めて、マンションとして「地域防災力強化千葉県知事表彰」を受賞し、平成30年度には「防災まちづくり大賞」の「日本防火・防災協会長賞」を受賞することが出来ました。

今後は、これまでの経験を生かし、行政ならびに地域町会とも協力・連携し、単なるマンションの自主防災組織ではなく、地域全体の街づくりのために活動の場を広げ、30年以内に80%との発生があるとも言われている首都直下地震に対応できるように人や物を充実させ、乗り切る力を備えたいと思います。